

IAUD Newsletter vol.13 第7号(2020年10月号)

1. オンライン第1回 UD 検定・中級開催のご案内…………… 1
2. IAUD 国際デザイン賞 2019 受賞紹介⑧…………… 3
3. IAUD10月の予定…………… 8



在宅で好きな時に UD 資格習得

オンライン第1回 UD 検定・中級開催のご案内



どこでもいつでも受験できる「オンライン第1回 UD 検定・中級」画面見本

IAUD では、ユニヴァーサルデザイン(UD)の更なる普及と実現をめざす一環として、2012 年より「UD 検定」を実施しています。これまでに全国各地で「UD 検定・初級」を 16 回、「UD 検定・中級」を 10 回開催し、多数の合格者を輩出してきました。

2020 年からは、24 時間いつでも場所を問わず講習と検定を受験できる「オンライン UD 検定・初級」を開始し、4 月と 7 月に実施して多くの方に受験いただきました。

そしてこの度、UD 検定・初級に続き「オンライン第1回 UD 検定・中級」をスタートします。

今号の Newsletter では、「オンライン第1回 UD 検定・中級」の開催概要と、現在申し込み受付中の「オンライン第3回 UD 検定・初級」についてご案内します。

UD 推進に必要な知識を学ぶ「UD 検定・中級」

「オンライン UD 検定・中級」は、企業でサービスの提供やものづくりに携わられる方、または行政で UD を推進される方を対象にしています。もちろん、UD に興味のある方や「UD 検定・初級認定者」でなくても、どなたでも受験できます。

UD は身近なモノやサービスだけでなく地球環境、安全・防災、平和・国際貢献といった広い分野に関わっており、UD を推進する上では、それぞれの分野での生活者のニーズや UD 配慮点、事例等を把握することが不可欠です。

国内最大の UD 推進団体である IAUD が主催する「オンライン UD 検定・中級」では、このような幅広い分野の UD の知識と、それぞれに一步踏み込んだ内容の理解を得ることができます。

公式テキストブックでの事前学習必須

「オンライン UD 検定・中級」の試験問題は、公式テキストブック「知る、わかる、ユニヴァーサルデザイン」(A4 判 263 ページ)に準拠して出題します。

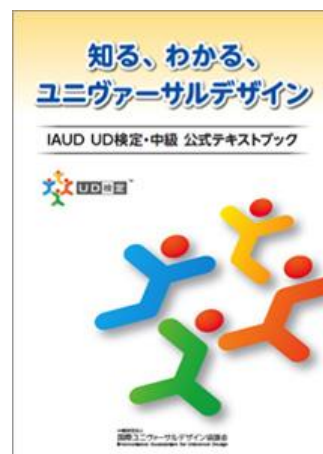
本書は各専門分野の第一線で活躍する方々に執筆いただき、具体的な事例を含め、広範な UD の知見をまとめています。UD に関する文献は数多くありますが、本書は 1 冊で UD の幅広い分野を網羅しています。

本書では、UD を推進するにあたって必要な UD の概念や歴史、サービスの提供やものづくりの基盤となる法令・規格、多種多様なユーザー特性を学びます。

また、建築やまちづくり、コミュニケーション、住宅、生活用品など各分野の考え方や具体事例、地球環境保全、安全・防災、平和・国際貢献など地球的・社会的なテーマと UD の関わりについても学びます。

受験される方は事前に公式テキストブックをご購入し、ご自身で学習された後に力試し問題と検定試験をお受けください。

なお、公式テキストブックは第 1 章から第 12 章あり、学習期間が必要です。
※公式テキストブック「知る、わかる、ユニヴァーサルデザイン」ご購入は[こちら](#)をご覧ください。



公式テキストブック

オンラインでいつでもどこでも受験可能

「オンライン UD 検定・中級」では、力試し問題と UD 検定・中級試験(70 分・約 130 問)を受けていただきます。

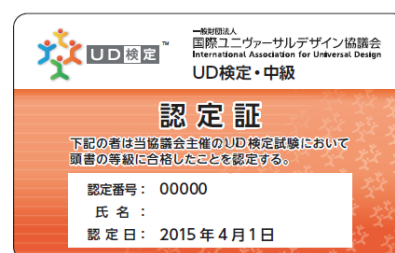
力試し問題は、本試験前に学習状況の把握や本試験の回答方法を事前に確認するためにお役立てください。

力試し問題と検定試験は、実施期間中であれば時間・場所を問わず受けていただけます。

合否は終了後すぐに判定されます。合格基準は総合得点 70%以上で、合格者には後日「UD 検定・中級 認定証」を発行します。

申し込み受付は 10 月 12 日(月)から 12 月 15 日(火)までです。この機会に是非、ご参加ください。

※「オンライン第 1 回 UD 検定・中級」詳細は[こちら](#)をご覧ください。



UD 検定・中級 認定証

大好評！「オンライン第3回 UD 検定・初級」申し込み受付中

IAUD は3回目となる「オンライン UD 検定・初級」も申し込み受付中です。

「オンライン UD 検定・初級」は、UD に関する基礎的な知識を学習する講習 4 つと力試し問題、検定試験(30分・50問)のセットです。

実施期間中であれば、時間・場所を問わず講習から検定試験までを受けていただくことができます。

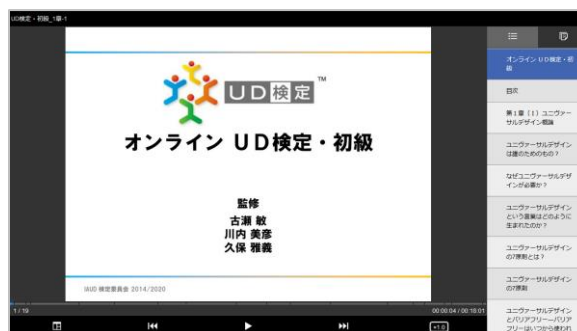
問題はすべてオンラインで受講した講習内容から出題され、合否は終了後すぐに判定されます。

また、合格者には「UD 検定・初級 認定証」を発行し、名刺への記載も可能です。

申し込み受付は 10 月 15 日(木)までです。この機会に是非、ご参加ください。

※「オンライン第3回 UD 検定・初級」詳細・申し込みは[こちら](#)をご覧ください。

※「オンライン第1回 UD 検定・初級」開催報告を掲載した Newsletter は[こちら](#)をご覧ください。



革新的な UD 活動を国際的に表彰 IAUD 国際デザイン賞 2019 受賞紹介⑧

IAUD 国際デザイン賞 2019 受賞紹介の第8回目は、地域計画部門金賞を受賞した Cohen Hilberry Architects(米国)の「Gateway Arch National Park & Museum at the Gateway Arch(ゲートウェイ・アーチ国立公園と博物館)」です。

ロジャー・コールマン審査委員長(英国王立芸術大学院名誉教授)は「Gateway Arch National Park & Museum at the Gateway Arch」について、「官民連携による大規模なインクルーシヴ都市改修プロジェクトの成功事例。UD と環境保全のシームレスな統合が特徴で、公共の場にインクルーシヴデザインの優れた事例をしっかりと提供している」と評価しました。

今号の Newsletter では、「Gateway Arch National Park & Museum at the Gateway Arch」の取り組みを Cohen Hilberry Architects の Gina Hilberry 氏に紹介していただきます。

※IAUD 国際デザイン賞 2019 受賞結果は[こちら](#)をご覧ください。

IAUD 国際デザイン賞 2019 審査講評は[こちら](#)をご覧ください。

※「IAUD 国際デザイン賞 2019 プレゼンテーション・表彰式」開催報告は[こちら](#)をご覧ください。

※IAUD 国際デザイン賞 2019 受賞紹介①は[こちら](#)をご覧ください。

IAUD 国際デザイン賞 2019 受賞紹介②は[こちら](#)をご覧ください。

IAUD 国際デザイン賞 2019 受賞紹介③は[こちら](#)をご覧ください。

IAUD 国際デザイン賞 2019 受賞紹介④は[こちら](#)をご覧ください。

IAUD 国際デザイン賞 2019 受賞紹介⑤は[こちら](#)をご覧ください。

IAUD 国際デザイン賞 2019 受賞紹介⑥は[こちら](#)をご覧ください。

IAUD 国際デザイン賞 2019 受賞紹介⑦は[こちら](#)をご覧ください。



IAUD 国際デザイン賞 2019 プレゼンテーション／表彰式の様子(2019年12月、東京・赤坂)

ユーザーと協働で持続可能な UD 都市に改修

IAUD 国際デザイン賞 2019 金賞:「Gateway Arch National Park & Museum at the Gateway Arch」Cohen Hilberry Architects(米国)



記念碑ゲートウェイ・アーチとその下に広がるゲートウェイ・アーチ国立公園

官民連携の都市改修プロジェクト

米国ミズーリ州東部の都市セントルイスにある「ゲートウェイ・アーチ国立公園」は、同市のランドマークである記念碑「ゲートウェイ・アーチ」を取り囲む、ミシシッピ川沿いに広がる国立公園です。

2010年から2018年まで、この国立公園とその周辺全体にUDを適用し、多様性と包摂性を備えたものにする大規模な都市改修プロジェクトが行われました。

このプロジェクトは米国国立公園局とCityArchRiver Foundation、国際的なデザイン会社Michael Van Valkenburgh and Partners (MVVA)の官民連携で遂行され、デザインプロセス全体にはユーザー専門家からなるUDグループが直接関与しました。

米国発展のシンボル「ゲートウェイ・アーチ」

「ゲートウェイ・アーチ国立公園」には、著名な建築家Eero Saarinenがデザインした高さ192mの記念碑「ゲートウェイ・アーチ」と、造園家Dan Kileyがデザインした約36万㎡の公園及びレクリエーションスペースがあります。

過去と未来の境界を意味しているカテナリー曲線状の「ゲートウェイ・アーチ」は、1947年に全米で行われたデザインコンテストで選出されたデザインで、1965年に完成しました。セントル

イスを起点とした西部開拓者の努力を称えた米国発展のシンボルとなっており、ミズーリ州で最も多くの人々が訪れている建物になっています。

「ゲートウェイ・アーチ」最上部にはトラムで行ける展望台があり、セントルイス市の街並みとミシシッピ川の素晴らしい景観を楽しむことができます。

「ゲートウェイ・アーチ」地下には、ビジターセンターと展望台行きトラム乗り場、さらに西部開拓の歴史に関する資料を展示している「ゲートウェイ・アーチ博物館」があります。

公園内には、奴隷制度からの解放を求めた歴史的な裁判「ドレッド・スコット裁判」で有名な「旧裁判所」もあります。現在は博物館として運営されており、フランス植民地時代から現在までのセントルイス市の歴史に関する史料が展示されています。



旧裁判所とゲートウェイ・アーチ

アクセシビリティ改善が課題

「ゲートウェイ・アーチ国立公園」はレクリエーションや教育、史跡として人々に利用されており、年間訪問者は 400 万人にも上ります。すべての訪問者を受け入れるためには、多様性や包摂性が不可欠です。

セントルイス市は開園から約 50 年を経た 2007 年に、国立公園とその周辺が直面しているアクセシビリティと接続性の欠如という課題を認識しました。

例えば、「旧裁判所」から「ゲートウェイ・アーチ」までのアクセスは公園内を横切る高速道路で分断されている、など地形上の複雑な問題がありました。

さらに、セントルイス市ダウントウンから国立公園、ミシシッピ川までをつなげるような、革新的な連続性の改善も求められました。

また、「旧裁判所」と「ゲートウェイ・アーチ」間にある広場「ルーサー・エリー・スミス・スクエア」を再活性化し、美しくかつ利用しやすく改修することも課題でした。

そして、2010 年に国立公園とその周辺を全面的に改修するデザインを公募したところ、MVVA のデザインが採用されました。

このデザインは、高速道路上に「ふた」をするような公園を建設し、「旧裁判所」と「ルーサー・エリー・スミス・スクエア」、「ゲートウェイ・アーチ博物館」、さらにミシシッピ川までをつなげ、公園内全体をアクセスしやすくするものです。



国立公園配置図

デザインプロセス全体にユーザー参加

プロジェクト遂行にあたり、地域に居住していて身体的及び感覚的、脳機能障害のあるユーザー専門家からなる UD グループが結成されました。

UD グループは、プロジェクト構想段階の 2010 年からプロジェクトが終了した 2018 年まで、デザインプロセス全体を通じて参加し、すべての課題を確認しました。

デザイナーや建築家、造園家とUDグループとの協働により、デザインプロセス全体を通してアクセシビリティに関する効果的なコンサルティングを実現できたため、プロジェクトにインクルーシブデザインの導入が促進されました。

複雑で大規模な都市改修を実現

2018年に新しく改修された「ゲートウェイ・アーチ国立公園」がオープンしました。

公園内を横断していた高速道路にはふたをすするような高架公園が設けられ、「旧裁判所」に向かってトンネル状の歩道も整備されました。

「ルーサー・エリー・スミス・スクエア」には木や芝生が植えられ、ピクニックエリアや90mのベンチが設置され、美しく居心地のよい空間になりました。

また、「ゲートウェイ・アーチ博物館」はすべての訪問者を念頭に置いて全面改修され、課題となっていたアクセシビリティと歴史的保存の両立を実現しています。

さらに、ミシシッピ川岸にはサイクリングやウォーキングができる遊歩道が整備されました。

そして、セントルイス市ダウンタウンから「旧裁判所」、改修された「ルーサー・エリー・スミス・スクエア」、新しく設置された高架公園、「ゲートウェイ・アーチ」と地下にある「ゲートウェイ・アーチ博物館」、ミシシッピ川岸の遊歩道までを、継ぎ目なく誰でも徒歩でアクセスできるようになりました。

省エネルギーと環境にも配慮した画期的なデザインには、「LEED(建物と敷地利用の環境性能評価システム)ゴールド」が授与されました。

公園と周辺全体にUD原則を適用

このプロジェクトでは、公園とその周辺全体を大規模に改修したことで、すべての目的地と経路にUD原則が適用されています。

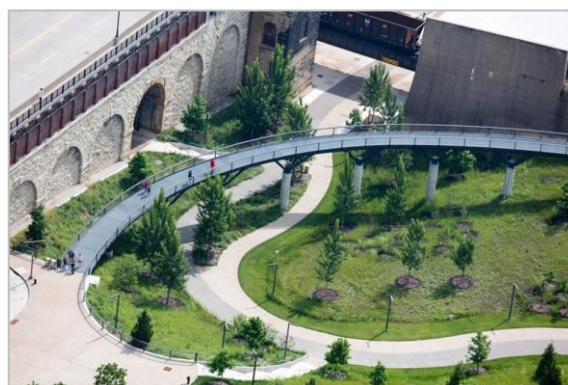
例えば、「ゲートウェイ・アーチ博物館」入口には左右対称のスロープを設置し、誰でも安全に移動できるようになりました。

また、公園内の歩道には車椅子ユーザーにとって十分なスペースを確保し、座った位置からの視線にも配慮したデザインになっています。

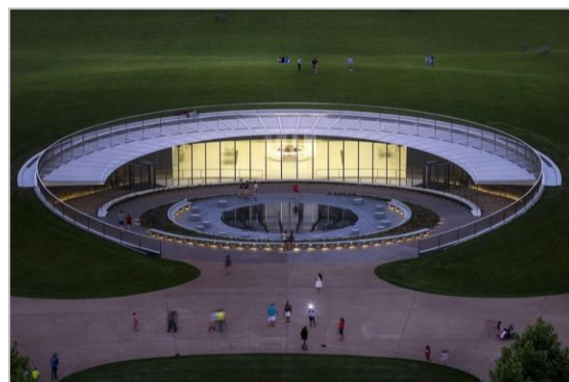
さらに、視覚障害者に配慮した照明や段差をなくす縁石ランプの設置、わかりやすく改良した標識や道案内など、アクセシビリティを向上させました。



ルーサー・エリー・スミス・スクエア、高架公園、ゲートウェイ・アーチ博物館をつなぐデザイン



駐車場から川岸を結ぶ新しく設置された歩道



左右対称のスロープを設置したゲートウェイ・アーチ博物館入口

公園内のトイレも、明るく快適で移動しやすいよう改修され、ファミリー用トイレも設置しました。

全面改修した「ゲートウェイ・アーチ博物館」

1976年に建設された「ゲートウェイ・アーチ博物館」は、アクセシビリティの面で大きな課題を抱えており、歴史的な建築物を保存しつつUDに適應させなければなりませんでした。

今回、全面的に改修され、様々な能力を持つ人々に対応した博物館に新しく生まれ変わりました。

入口は芝生の下に埋め込まれたような円形のデザインで、緩やかに傾斜しており、アクセシビリティの課題を解決しています。

湾曲したガラス張りの入口正面にある丸い池の水面には、上空にそびえる「ゲートウェイ・アーチ」が美しく反射しており、歴史的な風景にもうまく融合しています。

博物館内も、様々な能力の人々を受け入れ、誰もがより快適に見学できるようデザインされています。

多様なニーズや好みに合わせたインクルーシヴなアクセスを提供するため、展示スペースには感覚的及び空間的デザイン手法が導入されました。

例えば、天井にはストライプ状のルーバーを設け、外光を適度に遮断しながら、通気ができるようになっています。

また、対話型コンピューターを設置してシミュレーション体験ができるなど、あらゆる訪問者が実際に触れたり体験できるような工夫も多くあります。

スロープや色々な視線の高さに合わせた展示位置、多様な形式での情報提供、すべての画像コントラスト(画像の明暗の差)を70%に調整するなど、細部にまで配慮されたデザインになっています。

さらに、館内には車椅子利用者が前進し着席するためのスペースを十分に確保してあります。

また、自閉症の訪問者に対応するために、音や光をコントロールして刺激を少なくしたり、クールダウンできる休憩スペースを設置しています。

これらのデザイン検証にはUDグループが積極的に参加し、何度も調整を行って解決策を作成しました。

展示内容も一新され、移住など歴史的なテーマを現代的に追求しています。老朽化した資料も最新技術を用いて展示しており、200年にわたる西部開拓の歴史を年代順にわかりやすく紹介しています。



博物館入口とゲートウェイ・アーチ



展示スペースのルーバー天井



展示内容を誰にもわかりやすく紹介

「歴史的保存」「アクセシビリティ」「持続可能性」を統合

この革命的なインクルーシヴ大規模都市改修プロジェクトは、「歴史的保存」「アクセシビリティ」「持続可能性」という3つの課題を解決しており、明確で永続的なUD原則を適用した成功事例として高く評価されています。

このように、「ゲートウェイ・アーチ国立公園」は、よりインクルーシヴな新しいランドマークへと変化しました。

※このプロジェクトの詳細は[こちら](#)をご覧ください。



2020年10月の予定

月	火	水	木	金	土	日
			1 15:00～ UD+PJ オンライン会合	2 10:00～ 研究部会 オンライン会合	3	4
5 14:00～ CM 字幕 PJ オンライン会合	6	7	8	9	10	11
12 オンライン第1回 UD 検定・中級 申込開始	13 13:00～ CM 字幕 PJ 第6回字幕付き CM オンラインセ ミナー参加	14	15 オンライン第3回 UD 検定・初級 申込締め切り	16	17	18
19	20	21	22 14:50～ 衣の UDPJ オンライン会合	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

※新型コロナウイルス対策のため政府より不要不急の外出の自粛が要請されていることを受け、IAUDでは研究部会等の行事開催を一部見合わせ及びオンラインで実施しております。

次号は11月上旬発行予定

特集:IAUD 国際デザイン賞 2019 受賞紹介⑨ほか

一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会
事務局:〒225-0003 横浜市青葉区新石川 2-13-18-110
電話:045-901-8420 FAX:045-901-8417 e-mail:info@iaud.net